

2023年7月30日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 8 「三位一体」

イザヤ61：1、マタイ28：16～20

問24 これらの箇条はどのように分けられますか。

答 三つに分けられます。第一に、父なる神と、わたしたちの創造について、第二に、子なる神と、わたしたちの贖いについて、第三に、聖霊なる神と、わたしたちの聖化についてです。

問25 ただ一人の神がおられるだけなのになぜあなたは父、子、聖霊と三通りに呼ぶのですか。

答 それは、神が御自身についてそのように、すなわち、これら三つの位格が唯一まことの永遠の神であると、その御言葉において啓示なさったからです。

これは三位一体のことだとお気付きになられた方も多いと思います。世間でも時々「三位一体」という言葉が使われることがありますが、これは本来教会の教理の用語です。英語ではトリニティーと言います。使徒信条は、この三位一体の教えにならって三部構成になっています。父なる神さまについて、子なるイエス・キリストについて、聖霊なる神さまについて、それぞれの働きが使徒信条に告白されています。それを信仰問答では、父なる神さまは創造、子なる神さまは贖い、聖霊なる神さまは聖化と簡潔に表現します。

信仰問答が三位一体を説明するとき、そこに具体的な働きを伴わせている点が重要です。父なる神さまが創造であり、子なる神さまが贖い、聖霊なる神さまが聖化。聖化とはキリストの十字架とよみがえりによって罪赦され、新しい命を生き始めることです。わたしたちは救いに相応しく整えられていきます。それが目指すところは終末における完成です。そこに向かってわたしたちは聖化され、キリストに似たものと変えられていきます(ローマ8：29)。ですからこの「創造」「贖い」「聖化」は、「創造」「救済」「完成」と表現することもあります。ここには創造から完成まで一人の人間の救われていく過程が言い表されています。しかも唯一まことの神さまがこれを始められ、最後まで成し遂げてくださるのです。

あるアメリカの神学者は次のような譬えで三位一体を説明していました。三人の酪農家の兄弟が乳製品の会社を経営している。一番上の兄は搾乳、二番目は瓶詰めや加工、三番目は販売です。三者三様、それぞれ役割は違いますが、同じ一つの会社で、乳製品を作る仕事は一つです。三人で一つの仕事をしている。そのように三位一体の信仰も創造、贖い、聖化に至るまで一人の人間の救いを神さまが最後まで責任を持って担われます。この後、問26からは早速「父なる神について」という部分に入ります。そこでは「摂理」ということが言われます。それは一言で言うと、人間存在のすべて、創造から完成に至るまですべてを一貫して神さまが担われるということです。ここは下請けに任せるというのではなく、すべて責任を持って関わってくださるのです。それゆえに三位一体の信仰はわたしたちが神さまを信頼する十分な根拠となります。

働いておられる方々はよくお分かりと思いますが、何でも信用、信頼が求められます。でもそれがなかなか難しい。例えば、何か困ったことがあって問い合わせをすると、たらい回しのようになれることがあります。「それはここの管轄ではないので、ここに電話してください」と。何か責任を他に押し付けている感じがします。そこに不信感が生まれます。組織が大きくてもそれは一体なのです。そこでこそ信頼関係が作られます。三位一体は、父・子・聖霊なる神さ

まが三者三様ですが、別々ではありません。同じチーム、一体で働かれます。すべてに関わり、すべてに責任を持たれます。人間の救いという一つの目的に向かって共に働くのです。ですから教会で「神さま」と言う場合、それはどこまでも三位一体の神さまのことであることを忘れてはなりません。

三位一体の「一」はただ唯一の神さまというだけではなく、そのように一貫性、一体性ということでもあります。ぶれずに首尾一貫して一つの目的に向かって共に働く、共に動く。そこに責任の所在が明らかになります。わたしたちの救いに関してぶれることなく一貫して、父、子、聖霊が総動員で、全責任を負ってくださる。それで十分わたしたちは安心して、信頼して神さまにお任せすることができるのではないのでしょうか。

もう一つ、三位一体の「三」について考えるならば、それはもちろん「創造」「贖い」「聖化」ですが、これには広がりがあります。三は三角形のように放射状になります。これは終末の完成に向かう広がりイメージさせます。広がり、豊かさ、今日の言葉で言えば「多様性」と言ってもいいでしょう。神さまの救いは実に多様な働きがあります。様々なものを用いて救いの御業を行われます。教会の働きも多岐に及ぶでしょう。幼稚園、保育園などの付属施設のある教会、キリスト教主義学校での働きがあります。他にも病院や福祉など多くの働きを通して神さまの御業が進められています。また個々の歩みも一様ではありません。そのすべてが用いられて神さまの御業は進められていきます。

今日はマタイ福音書の弟子の派遣のところを読みました。ここも三位一体の根拠となる御言葉の一つです。主イエスは「父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい」（28：19）と教えられ、弟子たちは世界中に福音を宣べ伝えるため遣わされていきました。ここにも三位一体の「三」があります。神さまが弟子たちを励まし、その働きを用いて神さまの御国を押し広げられます。その御業こそ、三であり一つの神さまの豊かな働きであることを心に留めましょう。

天の父よ。わたしたちをお造りになられた神さまが初めから終わりまで、責任を持って、わたしたちの人生を完成へと導いてくださいます。しかも豊かな広がりを持ってすべてのものに福音を宣べ伝え、救いに招いてくださる恵みを感謝いたします。そのために尊い独り子がこの罪深い世に遣わされました。聖霊が地の果てにまで福音を広げてくださいます。どうぞこの三位一体の働きの中に捕らえられている恵みを覚えさせてください。主の御名によって祈ります。アーメン。